

5市連 人間基地航空祭での

演技飛行中止を申し入れる

10月7日、5市連（人間・狭山・所沢・飯能・日高の平和委員会）と労働組合、民主団体、政党の代表は、人間基地司令に航空祭での演技飛行中止を申し入れました。

申し入れ行動には19名が参加しました。会場には参加者全員の椅子が用意され、基地側からは広報担当が対応しました。

代表団は申し入れ書を読み上げ、危険な演技飛行はただちに中止するように要求しました。

これに対し基地側は、演技飛行は「自衛隊への信頼を得るため」「演技飛行をやるで見学者が28万人、やらないと8万人」と主張、宣伝効果を誇りました。代表団の「危険である」との指摘には、「危険が生じないよう安全対策を講じている」と答えました。

また演技飛行の実行は自衛隊中央の決定事項であり、人間基地は演技飛行計画を申請中であると回答しました。

演技飛行の費用開示については「予算は言えない」と拒みましたが、昨年の実績（決算）を示せとの要求には、「11月の観閲式の終了後に連絡する」と

回答しました。

西武鉄道は航空祭の宣伝ポスターを大量に制作、航空祭による運賃収入を大幅に見込んでいて癒着構造をあらわにしています。

11月19日に5市連のつどい

人間中央公民館で開催が決まりました。10月14日にはそのための会議が開かれます。この日にはつどいの詳細が決まります。

大惨事寸前だった

航空自衛隊F15戦闘機がタンクを落下

10月7日午前8時45分ごろ、石川県小松市の航空自衛隊小松基地から北北東に約4キロm離れた能美（のみ）市山口町付近で、航空自衛隊のF15戦闘機の燃料タンクと模擬ミサイルの一部が地上に落下する事故が発生しました。落下物は住宅地近くの下水道施設屋上や周辺の空き地など数カ所で見られました。

落下した燃料タンクは全長約6・6m、直径約80センチ、重さ約155kgで、機体下部に搭載した3本のうち、左翼の1本が落下しました。F15は4機編隊の3番機として小松基地を離陸。模擬空中戦を終え同基地に戻り、陸の約1分前にタンクを落としたと自衛隊は発表しました。



小松基地は日本海側では唯一の戦闘機部隊が常駐。日本海上には戦闘訓練空域もあり、緊急着陸（スクランブル）などによる昼夜の区別ない離発着が繰り返されています。その爆音被害は住民の受忍限度を超え、飛行停止などを求める住民訴訟に発展しています。

落下事故を起こしたF15戦闘機はこの日、模擬空中戦を行っており、防衛省はタンクとともに模擬ミサイルの一部も落下させたとしています。

自衛隊はF15戦闘機などへの空中給油を米軍機にも適用させる覚悟を結ぶなど日米共同作戦の拡大を強めています。訓練の増加にともない、墜落や落下事故の危険性が高まっています。

防衛省・航空自衛隊は、落下事故の全容公表と原因究明を国民に公開する形ですすめるとともに、全ての基地での事故機種の飛行を停止すべきです。



落下部品の一部（赤旗報道 10/8）